

# 経済界



電車の中で「経済界」という雑誌の吊り広告を目にした。「総力特集2020年注目企業38」と題されたその広告には、38社のリーダーたちが顔写真つきで紹介されている。その写真を眺めても、誰一人として見知った顔はいない。当たり前である。わたしは経済界とはまったく無縁に生きているからである。そして、世の中にはいくつくりの「〇〇界」があるのかなあと思った。

わたしがいづく範囲で考えられる「〇〇界」は、演劇界、映画界、音楽界、放送界、出版界、花柳界、法曹界、政界などであるが、他にもたくさんあるにちがいない。わたしたちは、自分が生存するこの世のことを総称して「世界」と呼んでいるわけだが、その「世界」はこのようなジャンル別の「〇〇界」によって構成されているわけである。

わたしが所属する演劇界における最大の栄誉はすばらしい舞台芸術を創造することだと思いが、わたしが所属しない経済界におけるそれは何なのだろうか？ それはおそらく経済的に最も利益を上げることである。品のない言葉を使うなら金儲けである。つまり、前記の「注目企業38」のリーダーたちは、金儲けをする上で大きな期待が寄せられているということである。それはそれですばらしいことなのだろが、わたしの関心はまったくそちらに向かわないのは、わたしと件のリーダーたちとの価値観がまったく違うからである。

わたしが電車の吊り広告で目にした「経済界」にちょっとした衝撃を受けたのは、そのような名称によって形づくられる人間の集団があり、その世界のリーダーたちが注目されたりするというこの世の多様性にある。

高橋いさを

〈劇作家・演出家

ISA W O O B O O K S T O R E 主宰〉